

郷土かみのかわの歴史・文化財

人物から見た上三川の歴史 上杉謙信

上三川の地は、宇都宮氏にとつて南の重要な守りの地であったが、鎌倉時代から安土桃山時代に至る350年の歴史の中で、多くの敵が宇都宮氏を滅ぼすべく攻めてきた。特に日本が戦乱の世に突入した戦国時代には、下野の地を狙う群雄たちが、多功城に押し寄せてきたことが記録されています。その中には、越後の虎として著名な上杉謙信の軍勢も含まれています。

江戸時代に編纂された「関八州古戦録」「下野国誌」によると、会津地方を中心に勢力を広げていた蘆名氏は、会津はもとより、福島県の中通り地方にまで勢力を広げ、相模の北条氏康や、古河公方の足利義氏とも手を結び、その勢力を広げようとしていました。しかし、上杉謙信の軍勢と戦いとなり、大敗を喫しまし

た。和平を申し出た蘆名氏は、謙信に対し、関東地方の平定を行うべきだと申し出たところ謙信は、1558年に上野より下野へ軍勢を進めました。まずは小山の祇園城を攻め、続いて壬生城を攻め、更には宇都宮氏を攻め落とすべく、多功城を攻めました。多功城には同じ宇都宮勢である、真岡城・上三川城の軍勢も加わり、総勢二千騎で敵を迎え討ちました。すると城主多功長朝の指揮により、先陣の佐野小太郎を討ち取ると、混乱した上杉の軍勢は、上野に引き、武蔵岩槻城主太田氏の仲介により和睦をしたということとです。

この時期の関東地方は、室町幕府の鎌倉公方の流れを汲む古河公方を中心とした勢力と、新たに関東で力を蓄えた小田原城の北条氏に味方する

鎌倉時代															西暦	年号	できごと			
1578	1574	1573	1569	1568	1564	1562		1561	1560			1559	1558	1557	1551	1549	1548	1530	享祿3	上杉謙信生まれる。
天正6	天正2	天正元	永祿12	永祿11	永祿7	永祿5		永祿4	永祿3			永祿2	永祿元	弘治3	天文20	天文18	天文17			謙信、兄晴景と争い、守護上杉定実の斡旋によつて家督を継ぐ。
上杉謙信、脳溢血により死去。	上杉謙信、剃髪し謙信と称す。	上杉謙信、越中を平定。	上杉謙信と北条氏康・氏政の間で越相同盟が締結される。北条氏と敵対関係にある佐竹氏・宇都宮氏は反発。	織田信長、将軍足利義昭を奉じて上洛する。	北条氏政が宇都宮広綱を攻撃。	大関高増・佐竹義重・長倉義当が援軍を出す。	上杉謙信、関東の諸氏を味方中として組織し、関東管領としての立場を利用して、軍勢督促状を出す。	上杉謙信、鎌倉の鶴岡八幡宮の神前で正式に関東管領に就任。このとき初めて上杉を名乗る。	上杉謙信、関東に出陣。小山・宇都宮・小田氏等と北条氏の小田原城を攻める。	上杉謙信に属した小田・宇都宮・佐竹・那須・小山氏が北条氏方結城氏の居城を攻める。	上杉謙信、北条氏康に追われた関東管領上杉憲政を擁立し、北条氏追討の兵を挙げる。	佐竹・宇都宮・長沼・小山の各氏が上杉謙信に太刀を進呈する。	北条方小田氏治攻略を、佐竹氏・宇都宮氏等が連署で上杉謙信に申し入れる。	多功城主多功長朝はこれを討ち取るという。	上杉謙信、下野に侵入。多功城は佐野小太郎豊綱が攻め入り、上杉謙信に申し入れる。	壬生綱雄、宇都宮城に入城。	喜連川五月女坂の合戦。宇都宮家当主尚綱、討死。上三川・多功勢も参戦。			